

涙液油層の 動態を観察する!

2014年11月15日(土) 7:45~8:45

神戸ポートピアホテル 南館B1F エメラルド 第10会場

座長 木下茂先生

京都府立医科大学 眼科学教室 教授



皆さんは、DR-1™を覚えていますか？ DR-1™は、涙液層表面に白色光を照射し、涙液油層の動態を観察する検査機器です。その基本原理は、1986年に、米国Schepens Eye Research InstituteのMarshall Doane博士が開発し、1997年、興和株式会社が国内向けにDR-1™という名称で製造販売し、コンタクトレンズ外来やドライアイ専門外来で広く使用されてきました。しかし、一般臨床家に普及するまでには至りませんでした。このDR-1™がバージョンアップして再登場することが、今、期待されています。

この背景には、ドライアイの新しい治療概念であるTFOT(ティーフォット)が大きく関係しています。TFOTとはTear Film Oriented Therapyの略称のことであり、ドライアイ治療における涙液の層別治療を提唱した概念のことです。わが国では、ヒアルロン酸ナトリウム、ジクアホソルナトリウム、レバミピド等の涙液・眼表面への作用機序が異なる数種の点眼薬が使用出来るようになり、ドライアイ治療のブレイクスルーが生じています。

本セミナーでは、DR-1™に造詣の深い横井則彦先生にドライアイ診療に役立つTFOTの概念を、堀裕一先生にはDR-1™の持つ大きなポテンシャルと様々な臨床応用についてお話をさせていただきます。スリットランプ検査では見えない異常を覗いてみませんか？

講演 1

TFOTのためのTFOD(Tear Film Oriented Diagnosis)

横井 則彦 先生

京都府立医科大学 眼科学教室 准教授



講演 2

DR-1の様々な臨床応用

堀 裕一 先生

東邦大学医療センター大森病院 眼科 教授

